

令和6年度岩手県釜石保健所運営協議会 開催結果概要

1 日時

令和7年2月25日（火）午後6時30分から午後7時25分まで

2 場所

釜石市大町3丁目8番3号

釜石市青葉ビル 研修室1・2

3 出席者

(1) 委員

25名中18名出席、欠席者の所属団体からの代理者3名出席

(2) 事務局

岩手県釜石保健所職員等12名

4 傍聴者

なし

5 議事及び説明事項

(1) 令和6年度岩手県釜石保健所事業概要について

資料1により、企画管理課長から所掌事務等について、各課長から令和6年度の主な取組について説明を行った。

【質疑、意見等】

[岩手県環境アドバイザー 加藤委員]

「第4 令和6年度の各課の主な取組」、「1 企画管理課」、「(1) 医療」、「ウ 医療・介護人材の確保」に、リーフレットの作成・配布とあるが、各学校に配布するのか。

[企画管理課 佐藤課長]

市町の教育委員会を通じて、釜石市と大槌町の中学校2年生を対象に配布している。

[岩手県環境アドバイザー 加藤委員]

リーフレットは配布するだけなのか。例えば、リーフレットを持って行って、ちょっと短い説明をするというようなことはしないのか。

[企画管理課 佐藤課長]

一口に医療職といっても、医師をはじめ、看護師や作業療法士であるとか、様々な職種、それから介護分野も含め1冊のリーフレットを作っている。その中で、興味がある分野を見てもらいながら、将来の進路選択に役立ててもらおうことを狙いとして配布している。使い方は、市町の教育委員会を通じて、各学校の判断で自由に使ってもらえるよう依頼している。

[岩手県環境アドバイザー 加藤委員]

これは、医療・介護人材を確保するための取組ということか。

[企画管理課 佐藤課長]

将来の職業選択に向けた一助としてもらうために作っている。

[岩手県環境アドバイザー 加藤委員]

関連して、「2 保健課」、「(1) 健康づくり」、「オ 口腔保健」に、オーラルヘルスリテラシー向上のための普及啓発事業として、教育保育施設及び学校に在籍する方を対象としたパンフレット配布とあるが、これも配布するだけなのか。

[保健課 岩淵課長]

当保健所において、保育施設用、小学校用、中学校用及び高等学校用のリーフレットをA4版両面刷りで作成している。こちらは、直接、教育保育施設及び学校に持参し、養護教諭に説明を行い、児童及び生徒への配布を依頼している。

[岩手県環境アドバイザー 加藤委員]

県内の小学校で、昆布を噛むとか、歯の模型を見せて、上級生が下級生に教えたりなどの活動を行い全国表彰されている学校がある。個人的に、子どもの肥満、朝食抜き、睡眠時間の減少、視力の低下などが気になっている。子ども達の状態が良くなるように、リーフレットを渡すだけではなく、何か1つフォローが欲しいと思いい、意見として申し上げる。

[(一社)岩手県獣医師会遠野支会 前川委員]

「第3 所掌事務」、「1 保健所」に「(5) 住宅、水道その他の環境衛生に関すること」とあり、「2 保健福祉環境部」に「(27) 化学物質対策に関すること」とある。いま調査対象になっているのかわからないが、この地域のPFASの汚染状況はどのようにになっているのか。

〔環境衛生課 小川課長〕

P F A Sは、周辺調査等が始まったばかりで、水道施設の調査は今後始まることになるかと思うので、データの蓄積はこれからになると思われる。

〔岩手県立釜石病院 坂下委員〕

「第4 令和6年度の各課の主な取組」、「2 保健課」、「(5) 自殺対策」について、全国で非常に重要視されており、本県の自殺死亡率は全国平均に比べて非常に高い水準にあるが、釜石管内はだいぶ下がってきているようである。全県の対策と比べて何か特別な取組や要因があるのか。

〔保健課 岩淵課長〕

釜石管内の統計を見ると、令和5年から令和6年も減っている。対策については、県が推奨している久慈モデルで、包括的なプログラムは特に変わりなく実施しているところ。特に釜石管内で力を入れているところは、ネットワークの構築であり、実務者レベルの連絡会や研修会を年5回開催するとともに、釜石市及び大槌町と一緒に普及啓発を実施している。釜石保健所だけではなく、おそらく釜石市及び大槌町の取組が成果として出ているのではないかと思う。

〔岩手県立釜石病院 坂下委員〕

いろいろな要因があると思うが、社会的孤立を防ぐということは非常に大きいと思うので、ネットワークの構築は重要なことだと思う。

〔岩手県環境アドバイザー 加藤委員〕

いま自殺の話が出たが、釜石管内で少なくなってきている中で、小学生、中学生及び高校生の自殺死亡率はどのような状況か。

〔保健課 岩淵課長〕

釜石管内では、統計上、令和2年に10代の人が自死したということを把握している。以降、釜石管内では10代の自死は計上されていない。実務者連絡会には、釜石市及び大槌町の教育委員会にも参加してもらっているが、教育現場でのSOSの出し方であるとか、教員の勉強会や相談窓口の周知といったことに重点的に取り組んでもらっている。行政機関ではその情報を共有し、例えば、個別のケース支援、親の支援など世帯を含めた支援を行っている。

〔岩手県環境アドバイザー 加藤委員〕

自殺に関しては説明のとおりだとして、県内の不登校、あるいは学校に行かない

子どもが、令和5年は3,050人程度いる。この人たちは悩みを抱えている。対策として傾聴ボランティアなどが考えられると思うが、これまで傾聴ボランティアの活動が功を奏しているのか。

〔保健課 岩淵課長〕

傾聴ボランティアについて、釜石管内では2つの団体が活動している。高齢者施設やサロンの開設などをして、そこに集まる人に対する傾聴活動が主であり、子どもたちの支援にまで活動の幅が広がられていない状況がある。しかしながら、今年度も保健所として傾聴ボランティアの養成を実施している。釜石市及び大槌町の住民を対象として10名程度の参加者がおり、その中でも不登校の話が出ていた。また新たな視点で取り組みたいと考えているので、関係者間で共有していきたいと思う。

〔(独)国立病院機構釜石病院 成田委員代理〕

昨年10月に当地に着任し、今回初めてこの会議に出席している。先ほどから話題になっている子どもの体と心の健康について話したい。前任地において災害医療に取り組んでいた関係で、昨年、大阪商工会議所に呼ばれた。今年の大阪・関西万博は、いのち輝く未来社会のデザインをテーマに開催されるが、災害医療を経験した立場から意見が欲しいという依頼を受け提案してきた。大阪をサポートすることではないが、意識として、健康、SDGsといった、いろいろな課題がある中で最初に出てくるのが健康問題、病気の問題である。そういった認識のもとで開催される万博なので、おそらく健康意識を高める取組をいろいろ考えて催される。そういう意味合いでは、子どもたちが将来にこの万博を振り返ったとき、我々が見た太陽の塔のように、健康という部分が見えてくる万博になると思う。タイミングとして、いのち輝くという言葉が大きく出てくる年になるので、子どもたち、あるいは地域に対して、健康の意識を一段高められる年になると思い、そのことを皆さんと共有したく話をさせてもらった。

〔釜石市公衆衛生組合連合会 古川委員〕

環境衛生の関係について質問したい。昨年11月26日頃、岩手県釜石保健所の小川課長をはじめとした関係者や釜石市公衆衛生組合連合会、警察などが集まり、根浜の箱崎に繋がっている道路沿いの不法投棄について調査を行った。車に乗っていると目立たないが、空き缶などが結構な量で捨てられていた。奥の方には御箱崎千畳敷といった観光地があるので、すごく残念な気持ちになった。地元の町内会で不法投棄禁止の看板を立てるなど努力はしているが、地元の人なのか、たまたま魚釣りなどに来ている人なのか、現場を見るとがっかりする。釜石市内の他の地域でも

同様の事例があると思うが、今後、保健所としてどのように取り組んでいくのか。

【環境衛生課 小川課長】

釜石市公衆衛生組合連合会には、不法投棄パトロールなどで協力をいただいております。不法投棄は、規則等で規制できない部分もあり、モラルに訴えて働きかけているところだが、釜石市などの協力も得て、不法投棄の現場を確認し、可能な限り撤去して、今後の抑制に努めている。不法投棄があった場合は、情報提供いただき、監視カメラの設置など抑止力を強めていきたいと考えている。

(2) 令和7年度の重点取組事項について

資料2により、保健課長、環境衛生課課長及び福祉課長から令和7年度の重点取組事項について説明を行った。

【質疑、意見等】

【岩手県環境アドバイザー 加藤委員】

「1 食生活改善や運動習慣の定着などによる生活習慣病の予防と高齢者の健康づくりの推進」、「(1) 働く世代の生活習慣の改善と企業の健康経営の取組を促進」に「ウ 中高生を対象とした健康づくり支援への取組」を追加しているようだが、その理由を教えてください。

【保健課 岩淵課長】

所長が冒頭あいさつで触れたとおり、釜石管内は、脳血管疾患の死亡率等の健康課題を含め、若年層から取り組んでいって対策を進めたほうがいいという考えがある。それは疾患の対策だけではなく、健康づくりの観点、自分で自分の体を知るという観点から、そういった機会を増やしたいという考えで追加している。

【岩手県環境アドバイザー 加藤委員】

学校に出張して何か行うということか。

【保健課 岩淵課長】

講話だけではなく体験型の出前講座を想定している。インボディという体組成計があり、血管年齢の測定は子どもにはまだ早いかもしれないが、そういった機会を通じて体の状態を数値化して把握できることを認識してもらい、関心を高めていきたいと考えている。

【岩手県環境アドバイザー 加藤委員】

岩手県は、健康寿命がワースト1位ということで、子どもたちの未来はとても大

切なので、この取組はぜひ進めてもらいたい。昨年度のこの会議で、子どもたちの生活リズムを整える時間栄養学をどのように普及させていくのかと質問したとき、今後、市民の皆さんに広めていきたいというような回答だったと思うが、どのような状況になっているのか。

[保健課 岩渕課長]

時間栄養学は、資料1にまとめているが、保健所として、直接住民に働きかける機会は限られているが、循環器病等予防緊急対策事業の中で健康的な食事推進マスター活動支援研修を実施している。食生活改善推進員、行政や特定給食施設の栄養士や従事者に対して研修を実施し、地域や職場で実践してもらおうというような取組を行っている。

[(独) 国立病院機構釜石病院 成田委員代理]

「2 被災地の健康づくりと心のケア」、「(4) 心のサポーターなどの人材を育成するとともに、関係機関・団体と連携を図りながら自殺対策の普及、啓発や引きこもりの方等への必要な支援活動を推進」とあるが、用語の問題で、自殺対策や引きこもりという言いまわしが気になる。ニューロダイバーシティという言葉を使って、ADHDの子どもが自宅でインターネットを活用してすごい活動をしているとか、そういった可能性をもっと有効的に、国のため、世界のために活用してもらおうという動きが2年ほど前から始まっている。そういった環境になっている中で、旧来の用語を使用して自殺対策と謳っても、子どもたちには伝わらないのではないか。ニューロダイバーシティという言葉で包括するということでもないが、子どもたちの持っている能力を広げるために、用語を変えていくことを考えるのもよいのではないか。

[保健課 岩渕課長]

時代の流れに沿った視点を持つのは大事なことだと思うので、情報収集をしながら、適切な表現について検討していきたいと思う。

[岩手県環境アドバイザー 加藤委員]

「4 市町村の脱炭素化(GX)の推進支援について」は、もう取り組まないと間に合わないということで追加されたと思うが、その代わりに環境学習の推進の取組が削られていて心配している。いまの小学生、中学生及び高校生は、みんなスマートフォンの使用に時間を取られていて、脳の状態を心配している。東北大学加齢医学研究所の川島隆太教授が、スマートフォンを過使用していると学力が落ちるとか、脳の一部が発達しなくなるといった警鐘を鳴らしている。仙台市教育委員会は、

川島教授の意見を取り入れてリーフレットを発行し、生徒たちにスマートフォンやゲームの利用時間は1日これくらいにしようといった話し合いをさせるというような取組を行っている。その代わりに何をやらせるかという、外で自由に遊ばせる。環境学習や水生生物調査など、水の中で自由に、好きなように遊んでもらうといったことに取り組んでいる。この間も不登校の子どもたちが、すごく喜んで思いっきり遊んでいる姿を目の当たりにしているので、環境学習の推進の取組は消滅させることなく実施してもらいたい。

〔環境衛生課 小川課長〕

環境学習の推進の取組は、どのような規模でできるかわからないが、来年度も同様の形で実施したいと考えており、継続実施に向けて努力する。

(3) その他

なし

6 その他

〔岩手県環境アドバイザー 加藤委員〕

先ほどの環境学習の質問の続きで、努力するという回答だったが、予算がつかないと実施できないということか。

〔保健所 菊池次長〕

環境学習に関する事業は、いま予算要求事務を行っているところであり、先ほど環境衛生課長から回答したとおり、今年度と同規模で実施できるか不透明な部分もあるが、環境学習に関する事業は重要と認識している。何らかの形で継続実施できるよう鋭意努力しているところなので、この場ではっきりとやりますとは言えないが、事業実施に向けて調整を進めていきたい。